

2023

10-11月

はしかけニューズレター

2023年度 第4号 通巻173号

2023年(令和5年)10月1日 発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 中川)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目 次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
(4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
(7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) ザ! ディスカバはしかけ
(10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生きもの調査グループ
(14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
(17) びわたん (18) ほねほねくらぶ (19) 緑のくすり箱 (20) 虫架け (21) 森人 (22) 琵琶湖梁山泊
(23) サロン de 湖流 (24) 水と暮らし研究会 (25) 海浜植物守りたい

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(10月～12月)

4. 生活実験工房からのお知らせ

5. その他の事項

会員数 … 366人
グループ数 25グループ
(2023年 9月30日現在)

1. 事務局からのお知らせ

秋空が気持ちよく澄みわたる好季節となり、皆様いかがお過ごしでしょうか。この季節の訪れは、心地よい涼風と共に、自然の美しさを満喫できる特別な時間です。

一方で、今年の8月はかつてないほどの猛暑に見舞われました。そのため、いくつかのグループが活動を控えることを余儀なくされていました。このような気象条件下での活動は、健康や安全を第一に考えることが必要ですので、お互いの安全を確保しながら、無理せず活動を続けていただければと思います。

以下は事務局からの連絡となります。

■企画展「おこめ展 —おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—」について

現在、お米をテーマにした企画展「おこめ展」が開催中です！おこめをテーマに、琵琶湖博物館ならではの多様な研究領域からなる展示によって、田んぼを場とした生態系、イネの植物学的情報、おこめと文化、おこめ調理の歴史を紹介しています。期間は2023年11月19日(日)までです。

■びわ博フェス 2023 について

本年度のびわ博フェスは11月18日(土)～19日(日)に開催予定です。皆様のご来館をお待ちしております。

■びわ博フェス 2023 でのポスター発表やワークショップについて

グループで活動の皆さまには、ポスター発表やワークショップのご準備、誠にありがとうございます。代表者の方へはびわ博フェスの準備に関わる情報を、随時メールでお送りいたします。何卒ご協力のほど宜しくお願い致します。

■はしかけ登録講座 9月について

はしかけ登録講座を9月にオンラインと対面式の両方で実施しました。新規会員の方は10月より活動に参加されます。

(中川 信次)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 51名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■7月16日(日) 第176回定例調査 場所:野田沼周辺水路等 参加者:18名

長浜市湖北町にある野田沼周辺を調査しました。集合時間から日が照っており、日陰にいても汗が出るような暑さでした。

野田沼周辺の水路、今西・延勝寺周辺、山本山周辺の3班で調査し、17種の魚が確認できました。琵琶湖の近くということもあり、泥深い地点もあったようで、琵琶湖で調査兼泥落としをして終える班もありました。

かなり暑い中でしたが、皆さん水分補給をしっかりとされていたので体調不良等も無く楽しい調査となりました。(報告:中島 財)

■8月5日(土) テナガエビ釣り・採り 場所:湖岸緑地公園 参加者:14名

昨年度は天候の影響で中止とした夏の釣り企画。今年は夕立もなく、無事に開催できました。14名の参加者が集まり、明るいうちは釣りの準備。釣りやテナガエビ採りが初めての方もおり、私(中尾)は仕掛け作りのお手伝い。ウキの近くには100円ショップで買ってきた化学発光体を装着し、夜に備えます。あたりが完全に暗くなるとすぐに「テナガエビいた!」の声。ライトで照らすと足元の石にエビが。ぽつぽつと釣れ始めますが、見えているのになかなか釣れません。サイズが小さいからでしょうか。

釣りが難しいので次は「エビたも」の出番。少し慣れが必要で、ライトの照度、当て方、網をかぶせる角度、網を上げるタイミングと方向、等に皆さん苦戦しながらも、順調にバケツの中のエビは増えて行きます。ほとんどが中～小型だったのですが、立派な長～い「手」を持つ大型のオスも数尾採れました。

途中、夢中になりすぎて、落水しかける人が数名。湖岸の岩は乾いているように見えても、表面に貼り付いた藻類のせいで滑ります。湖ギリギリまで行かない、滑りにくい靴をはく、ライフジャケットを着用する等、十分に注意しましょう。

最終的には全員がお土産程度のテナガエビは確保できました。途中や終わったあとのおしゃべりも含め、楽しい会でした。またやりましょう。(報告:中尾博行)

■9月17日(日) 第177回定例調査 場所:伊佐々川 参加者:19名

9月中旬にもかかわらず暑い日が続く中、2か月ぶりの調査が草津市内で行われました。草津駅近くの伊佐々川を調査することで、いつもと違って自転車、電車を中心に、一部の方が自家用車での集合となりました。暑い中、なお都市部ということで参加人数が少ないのではないかと心配されましたが、ふたを開けてみれば19名とほぼいつも通りの人数でした。

市街地を流れる川ですが2時間あまりの調査で、外来魚2種を含め、12種の魚が確認されました。最も多く見られたのはオイカワとカワムツ・ヌマムツ類、最も大きかったのはコイでした。下流域(郵便局近く)を調査した班は釣りやガサガサをしている一家と遭遇。小学校低学年の息子さんが魚に夢中とのことで、うおの会の宣伝をしておきました。そのうち会員になってくれるといいなあ。(報告:石井千津)

【今後の予定】

10月は米原市周辺の調査を予定しています。11月はびわ博フェスト、他団体の調査への参加・協力を予定しています。詳細はメールにてお知らせします。



採集したオオクチバスと、バスが吐き出したオイカワ (9月)



カマツカの稚魚 (9月)



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員：橋本 道範

【活動報告】

近江 巡礼の歴史勉強会の活動はありませんでした。

別件で甲賀市岩上自治振興会のミニミニ講座で2回目となる『今郷棚田の自然観察会』(7月30日、参加者10名)を開催した。みなくち子どもの森自然館でササユリとヤマトサンショウウオの展示を見学後、今郷棚田に移動して生き物観察を実施。メダカ、シマエビ、タイコウチ、マツモムシなどを観察し、生物多様性を実感した。

【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を開始する。
- ・「びわ博フェス 2023」に向けた取り組みを進める。

(福野憲二)



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員：柘永 一宏

【活動報告】

■2023年8月20日(日) 琵琶湖博物館 参加者 3名

オープンラボや水族展示室でのスケッチおよび敷地内での吟行を行いました。

■2023年9月17日(日) 琵琶湖博物館 参加者 3名

オープンラボでのスケッチおよび敷地内での吟行を行いました。
日中は残暑が厳しく、今月も主として博物館内での活動になりました。

<博物館 de 俳句>

生活実験工房前の田んぼの畔に曼珠沙華が咲き始めていました。
この日に会った秋の季語は、法師蟬、青い烏瓜の実、精霊ばった、
青柿、栗、いちじく、水引草、稲の花、稲、稲架、新藁、葛の花、萩、鶉花、
猫じゃらし(狛尾草)、曼珠沙華(彼岸花)など。



【活動予定】

■2023年10月15日(日)

花緑公園(野洲市) 現地集合 (10時にカフェの前にお集まりください)
雨天の場合は オープンラボ(琵琶湖博物館)にてスケッチを行います。
活動時間 10時~(17時)

※持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。
俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。





(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員:橋本道範

【活動報告】

■7月29日(土) 参加者:4名

びわ博フェスのワークショップを何にするか相談。ダンボールを使った織物に決定しました。早速試作品を制作。

■9月13日(水) 参加者:8名

ダンボール織りのタイトルは「毛糸で袋を織ってみよう」にしました。とりあえず使えるものということで、携帯ケースを作製してみました。結構時間がかかるので、本番は小さめサイズがいいかな。



7月29日 試作品

【活動予定】

■織姫の会

9月30日(土)、10月14日(土)、25日(水)、11月8日(水)

■びわ博フェス

11月18日(土)13:00～「毛糸で袋を織ってみよう」

■びわたんと共催

12月9日(土)「綿にふれてみよう」

(辻川智代)



9月13日 携帯ケース作成



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ担当職員:里口 保文

【活動報告】

■2023年8月の活動

○勉強会とびわ博フェスについての打合せ (参加者8名)

日時:8月27日(日)13:30～16:30

場所:琵琶湖博物館 実習室1

1. 勉強会

大津の岩石調査隊、隊員Uさんによる「私にとってのマグマ(magma)の課題」と題しての報告。

マグマと貫入性火砕岩をキーワードにして調査している、音羽山山麓、熊野北岩体の相賀・小山浦、大台町の大台カルデラについて、現地調査結果、薄片比較(一部試作中)、文献調査などから得られた研究成果と今後の課題について、発表があった。

2. びわ博フェスの打合せ

11月開催のびわ博フェスへの参加に向けて、ポスター作成やワークショップの計画と準備などを話合った。

■今後の活動予定

10月22日(日) 野外調査の予定



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員:金尾 滋史

【活動報告】

■8月27日(日) 撮影会 石山駅前の風景 JR石山駅改札口 10:00～

石山駅周辺および瀬田の唐橋、また京阪で移動しながらそれぞれの駅前の風景を撮影しました。

■9月16日(日) 撮影会 守山駅前の風景 JR守山駅改札口 10:00～

守山駅前や旧中山道を歩きながら、建物などが急速に変わりつつある守山駅前の風景を撮影しました。

【活動予定】

■10月29日(土)おでかけ撮影会 in 水口 JR 貴生川駅 10:20 集合



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) - 名】

グループ担当職員:中川 信次

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ担当職員:山川 千代美

【活動報告】

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング⑧

日時:7月16日(日) 13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館 実習室1 参加人数:4名

活動内容:今回も、「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニングに取り組みました。久しぶりに新入会員を迎えることができ、メンバー達はとても喜び、代わるがわる新入会員のそばに行き、古琵琶湖発掘調査隊の活動についてや発掘プロジェクトで採集された化石について説明していました。新入会員は、昆虫化石のスケッチ2枚に取り組み、形の特徴などを丁寧に書き留めてくれたので、化石と一緒に記録として残しました。この日は、植物化石14点、咽頭歯化石20点をクリーニングすることができました。



〔咽頭歯化石について勉強中!〕

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング⑨

日時:7月28日(金) 13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館 実習室1 参加人数:3名

活動内容:この日は主に植物化石のクリーニングに取り組みました。化石についている泥を少しずつ取り除いていくと、化石の形や特徴が見やすくなっていきます。クリーニングをしながら、気がついた特徴をメンバー間で共有し、何の化石なのか見分ける力をつける努力も続けています。この日は、植物化石17点、昆虫化石1点、その他の化石1点をクリーニングすることができました。



〔化石の特徴について確認〕

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング⑩

日時:8月26日(土) 13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館 おとなのディスカバリー内 オープンラボ 参加人数:4名

活動内容:コロナ渦の間は利用することが難しかったオープンラボにて活動を行いました。オープンラボは、コンパクトな空間で洗い場や顕微鏡などの設備があり、実習室からも実体顕微鏡を数台持ち込み、観察やクリーニング作業をスムーズに行うことができました。いつもとは違う空間での作業だったこともあり、化石の話や鉱物の話などさまざまな話題で盛り上がり、集中しながらも楽しく活動を行い、植物化石13点、咽頭歯化石8点をクリーニングすることができました。作業終了後にはびわ博フェスについても話し合いました。今後も機会があれば、ぜひ、積極的にオープンラボを利用していきたいと思っています。



【活動予定】

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング⑪

日時:9月12日(火)13:00~16:00 場所:琵琶湖博物館 おとなのディスカバリー内 オープンラボ

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング⑫

日時・場所:未定(10月初旬を予定)



(9) ザ！ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員:米田 一紀

【活動報告】

■現在活動休止中です。

【活動予定】

■新型コロナウイルスによる規制が緩和されたため、今後、ザ！ディスカバはしかけの活動再開を予定しています。活動再開の際にはぜひご参加ください。

■ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽にお声がけください。いつでもお待ちしております！



(10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ担当職員:美濃部諭子

【活動報告】

■9月23日(土) ハンモック虫干し、道具整備 参加者8名

ハンモックと道具の手入れを行いました。年に一度の大切な作業です。前日雨が降っていたので心配でしたが、お天気も良く活動日和でした。

ハンモック干しでは、ハンモックのほかにロープやあて布も一緒に外に干しました。毎年、里山体験教室でハンモックを使っていて参加者にもとても好評です。せっかくなので他にもハンモックを使用したイベントを考えてもよいかもしれません。

道具整備では、サビが出ていたナタやノコギリなどを話しながらワイワイと落とすきれいにしました。これまで年に一度道具の整備をしていましたが、ノコギリの整備は年1回ではなく使用したら整備するという習慣をつけたほうがよいのではという話になりました。ノコギリの整備もやったことがない方が多いと思いますので、これからは体験の1つとして、里山体験教室で使用したときは最後に参加者の方に木くずを落としてもらう作業をしてもらおうかと思っています。

ハンモック虫干しも道具整備もみんなでやるとあっという間に終わりました。話しながら作業をすると楽しくて有意義な時間でした。

活動の後に、びわ博フェスの打合わせも行いました。今年は竹のけん玉づくりをする予定なので、みんなで一度作ってみました。それぞれのけん玉ができておもしろかったです。竹工作は発想次第でいろいろなものを作ることができ、いろいろな楽しみ方ができます。当日も子どもたちに喜んでもらえそうだと感じました。



【今後の活動予定】

- 10月7日(土) 里山体験教室 下見
- 10月15日(日) 里山体験教室 本番
- 11月5日(日) はしかけの森整備&お楽しみ



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ担当職員: 芦谷美奈子

今年は、例年に増しての猛暑。熱中症アラートが毎日朝から出っぱなしの日々でした。

また、あちこちでの豪雨災害が続き、被災された方々にお見舞い申し上げます。

【活動報告】

- 8月 日 (日) 例年8月は、熱中症予防のため、お休み 参加者 0名
- 9月 3日 (日) お出かけ観察 長浜市豊公園北で「水草観察 ④」 10:00~12:00すぎ 参加者 4名

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言で中止になるなど、3年ぶりの水草観察。

今年は、大河ドラマの関係で長浜城の観光客が多く、近くの浜での観察はどうなのかと心配したが、当日、浜は波も穏やかで観光客の方々も少なかった。ほっと、一安心。

車を停めたところから歩き、川の水草をアンカーで採ってもらい、観察。ここでは、コカナダモ、エビモ、ネジレモなどを観察。ネジレモは、雌花がついていて花茎が伸びていた。受粉すると花茎の途中がくるくと巻いて、水中に沈むと聞き、水中で結実するんだと驚いた。数年前に見せてもらったときは、くるくる巻いて沈んでいるものも見られたが、今回はまだ巻いているものは無かった。雄花が株の根元に付くと教えてもらったが、それも見られなかった。

浜に到着後は、胴長を着て水に入り、観察。

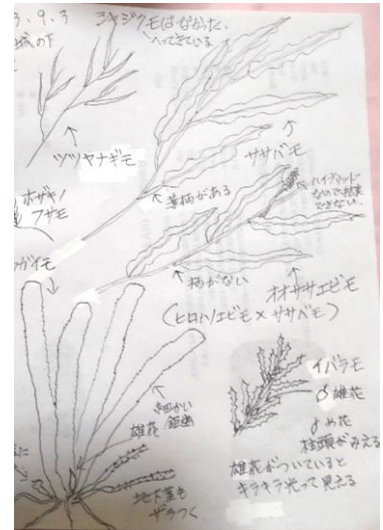
クロモのガラス細工のような雌花は花茎を伸ばして水面出ている。がんばって水面まで出ないと受粉できないらしい。クロモの雄花は、株の根元の袋から放出されて水面で開花、ガクのような部分がぐるんと下を向き、上に雄しべを乗せて水面を流れていく。言われないとただのホコリ状の粉にしか見えない。「不思議すぎる!」「そうか、テレビの番組で水辺の植物の受粉とかで見た光景の小さいバージョンか?」 などなど、メンバー全員のテンションは上がりっぱなしだった。

その他にも、ヒシ、オオササエビモ、ヒロハノエビモの両生花、イバラモの雌花（柱頭が2つに分かれている）雄花（水中でキラキラ光って見える、先のとんがりは1つ）、コウガイモの雄花（まだ小さい）が見られた。

花は無いがこの浜では、ササバモ、エビモ、葉の細いヒルムシロ属のもの（たぶんツツイトモ）、トリゲモのなかま、マツモ、ホザキノフサモ、ネジレモをゆっくり比べながら観察できた。

この日は、全部で14種の水草を観察することができた。固有種もあり、こんなに沢山の種数が見られるのは琵琶湖だからだと最後に聞き、琵琶湖の豊かさと不思議さに驚いた。

芦谷先生、暑い中、お忙しい中お世話になり、ありがとうございました。



【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。
- 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変動的になります。
基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行こう」方向でいます。
- 10月1日 東近江市「布引の森」へお出かけ観察 10:00~12:30 ごろ 小雨決行、ひどくなったらその場で中止
- 11月以降は未定、 ※8月、2月の活動は、例年お休みしています
- ※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります



(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 24名】

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

影の会長は、第26回国際珪藻シンポジウム(山形、8月28日~9月2日)で、以下の発表をしてきました。

Ohtsuka T, Negoro T, Izumino H, Sato S, Tuji A: Diatoms presumed to have recently invaded Lake Biwa Basin in Central Japan. 26th International Diatom Symposium, Yamagata Terssa, Yamagata, August 29, 2023.

この発表では、琵琶湖とその集水域から、2020年以降だけで8種類の外来種あるいはその可能性がある珪藻が新たに出現したことを報告しました。うち4種はたんさいぼうの会会員が第一発見者、もう1種は「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」活動で初めて見つかりました。実はこの発表を準備していた前後に、琵琶湖淀川水系からさらに2種の新産珪藻が見つかっています。うち1種(新種の可能性あり)はたんさいぼうの会会員が、もう1種(汽水性とされている種;国内の他水域から報告あり)は琵琶湖の小さな生き物を観察する会会員が、それぞれ第一発見者です。珪藻に注がれる多くの眼がこうした新発見をもたらしているのですが、それにしても新規出現種の多さは異常です。

会員たちの活動は相変わらずゆっくりとですが進んでいます。会の活動としては安曇川(大津市・高島市)、曾根沼・野田沼(彦根市)、瀬田公園(大津市)、黒沢湿原(徳島県三好市)などの珪藻について顕微鏡写真を整理し、同定と研究論文執筆を進めています。個人活動も活発です。ある会員は、堅田内湖のヨシ茎上の珪藻の研究を進め、9月の調査ではまとまった数の *Sellaphora tanghongquii* (中国からの外来種の可能性あり)を見いだしました。別の会員は、多賀町のアケボノボウ出土地点周辺の古琵琶湖(蒲生層)の古環境復元に取り組み、論文をまとめつつあります。しかし、影の会長が館と学会の業務で多忙な上、外来種や新種を含む新発見が次々と持ち込まれてパンクしかかっており、これが会員の研究が片付かない最大の原因になっています。

【活動予定】

10月15日14時から、琵琶湖博物館研究交流室で、第75回たんさいぼうの会総会を開催します。ご関心のある方は上記代表アドレスまでご一報を。

びわ博フェスについては、今年も「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」と共同でマイクロアクアリウムをジャックするとともに、実習室をとって顕微鏡を使用したワークショップも開催したいと考えています。

個人研究は、これまでと同様に進めていきます。



(13) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

昨年10月発行のニュースレターにも夏の猛暑と豪雨のことを書いたと思うのですが、今年も昨年以上に厳しい暑さに悩まされた夏でした。私たちのグループでは、10年以上にわたって継続的に調査を行っている地域がいくつかありますが、そのうちのいくつかの地域で、とくにここ2~3年、エビ類の出現状況が変化しているように感じられるのも、こうした気候変動が影響しているのかもしれない。

さて、稲刈りが終わった土の中で田んぼのエビ類が休眠しているこの時期の私たちの活動は、春に採集したサンプルの同定とその結果の整理・分析です。本年度はサンプル瓶の総数が270本あり、7月に続いて8月にも同定会を実施することになりました。

【活動報告】

・8月6日13:00~16:00:琵琶湖博物館実習室1で3回目の同定会を行いました。7月に実施した2回の同定会に参加いただけなかった会員の方が出席できるように、日程を調整しました。今年度のサンプルの中には、私たちが田んぼのエビ類と呼んでいる大型鰓脚類のほか、胸に5対の脚をもつ普通に言うところのエビも含まれていたのので、図鑑と見比べながら作業する場面もありました。

・3回の同定作業により、本年度のサンプルは合計450本の標本に整理されました。そこで、同定結果を記入した調査票を集計し、統計データの作成、エビ類分布図の更新、結果報告会資料の作成を行いました。



【活動予定】

10月後半から11月に結果報告会を行うべく、日程の調整を行っています。詳細が決まりましたら、皆さんにメールでお知らせします。

(山川 栄樹)



(14) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) - 名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

<グループの活動について>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。

<次回の「タンポポ調査・西日本2025」の調査について>

全体の事務局より、2025年の調査について関係する府県の実行委員会にアンケートが送られてきました。2020年の調査のような西日本の広域にわたる調査の継続が困難なこと、大阪を中心に近畿エリア(十四国)に規模を縮小して実施する可能性もあります。滋賀県は、東西、南北の接点であり、いくつかの種類の生育地の境界にあることから、2025年はもう少し効率的に調査に参加することを前向きに検討していて、おそらく実施することになりそうです。

2025年の調査の実施の前には、2020年の報告書も何らかの形で発行されるとのことですので、今年度中には配布可能になると考えています。

【活動報告】

新規の活動報告は特にありません。

【活動予定】

現時点では、特に活動予定はありません。

(文責：芦谷)



(15) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員:中村久美子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また 10時から 14時までの一日の活動としています。

【活動報告】

◆8月の活動 夏休みのためお休みでした。

◆9月の活動 9/20(水) 12組(幼児16名、大人12名)

夏休み明け、久しぶりの開催でした。ミズカガミの田んぼはもう刈り取られ、もち米は首を垂れています。古代米は大人ほどの高さで成長していて、みんなびっくり(稲とは思わず、ススキかチガヤかと勘違いしたほど)。ゆっくりボチボチ集まって来られた親子の皆さんと、まずは朝の挨拶。子ども達のお名前を呼ぶと、「はいー」と手をあげる子どもも、恥ずかしそうにお母さんの後ろに隠れる子どもも(お家では、名前を呼ばれた時の練習をやっていたそうです。その時はめっちゃ元気でやる気満々だったそう。子どもの心の変化や成長が見られて楽しいですね)。お家の方のお名前も呼んでちこあそが始まります。(この時点で11時位です。なんとゆっくりということ)

田んぼに行くと、イナゴやショウリヨウバツタが大きくなってピヨーンと跳びます。それを見つけて捕まえようとする、さらにピヨーンと。虫取り網を借りて、そろりと近づいて、またピヨーンと。なかなか捕まえられません。カナヘビがいたり、カマキリがいたり、アゲハチョウが卵を産んでいたり、今回もいろんな生き物と出会えました。

9月と言えど、まだまだ夏の暑さ。ガチャコンポンプでの水遊びが大繁盛。お兄ちゃんが上手に水を出すと、それを見てまねて、ポンプをガチャガチャ。呼び水をしてガチャガチャ。ちょろつと水が出てきます。たらいにたつぷり水が溜まると、そろりそろりと足を入れて、お尻もつけて、「冷たいー!」、ドキドキしながらの水遊びです。ホースで水をかけあったり、葉っぱをバケツに浮かべたり、何時間でも遊べます。本当に、水って不思議なおモチャです。

森へも探検に出かけました。工房横の少し暗い森の入り口。お母さんで行ってみたい、けどちょっと怖い、の揺れる気持ち。そんなドキドキが、森に入ると、発見に代わります。クモの巣、キノコ、面白い形の葉っぱ、坂道、一本橋、ゼーんぶ楽しい冒険となりました。

終わり近くになると、空が曇って来ました。そして遠くの方で「ゴロゴロ!」の音。スマホでお天気レーダーを見ると、まもなく大津方面から雨雲がやってくる予報。しかも大雨予報。もっと探検したいなあ、あっちにも行きたいなあ、カナヘビさんどこ行ったかなあ、砂浜でも遊びたいなあ気持ちをぐっとこらえて、今日はもうおしまい。また来月待ってますとなりました。(その1時間後、大粒の大雨で前が見えなくなるほどで降りました。みんな早めに帰って正解でしたね。)

◆ちこあその絵本ができました!「おいでよ ちこあそ はくぶつかんのもりで」

中村学芸員(べっちゃん)が、ちこあそに参加している親子が、お家でもちこあそや森の自然をふりかえったり、次の活動を楽しみにしたりしてもらいたいとの思いで絵本を作りました! 読むと、まるでちこあそに来ているような気持ちなるよう、子どもの姿や工房の周りの自然を切り絵で表現しています。3回以上参加して下さった親子にプレゼントしています。持ち帰って早速読んで下さった親子から絵本に登場する子どもを見つけて「これぼくや」や「バンダナおじさんや」「またちこあそ行こ」とおしゃべりしていますと連絡くださっています。子どもが実際のちこあその体験と、絵本の世界でお家でも想像することが、成長の一助となると考えています。



カマキリがいました(見えるかな)



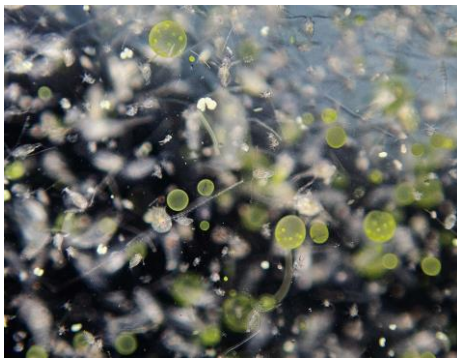
水遊びでみんなビチャビチャ



アゲハチョウが交尾をしていました



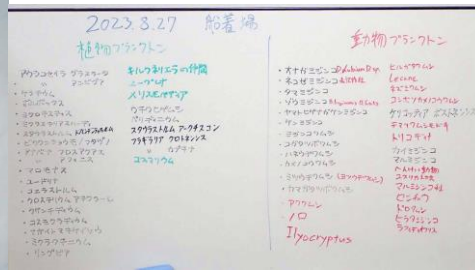
お米を炒ってポップライス



8月27日のプランクトン



オナガミジンコ属。夏に現れる。



8月27日に観察できたプランクトンの一覧

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(17) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員: 安達克紀・渡邊 俊洋

【活動報告】

8月・9月はわく探はありませんでした。
11月びわ博フェス 2023 についてメンバーで連絡を取り合いました。

【今後の予定】

11月 びわ博フェス 2023 参加予定
12月 9日(土) わく探「綿にふれてみよう！」



ほねほねくらぶ

(18) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員: 半田 直人

【活動報告】

■7月30日(日) 参加者: 4名
ニホンザルの徐肉を行いました。
この日でニホンザルの徐肉作業がようやく終わりを向え、何とか夏の間に腐敗させる工程に回すことが出来たのでよかったです。

夏場は腐敗が早いので、きれいに骨になってくれるとよいなと期待していたところに、腐敗させ始めて一月ほどたった段階で、写真のような状態となってくれたので、よかったです。完成するのが楽しみです。

■8月19日(土) 参加者: 3名
アカミガメ 2体分の解剖を行いました。

■8月27日(日) 参加者: 3名
アカミガメの解剖、ツキノワグマの解剖 を行いました。
この日から新たにツキノワグマの骨の制作にとりかかり始めました。



▲腐敗させている途中のニホンザルの骨の様子

このツキノワグマは、博物館の方で本剥製を制作された際に、残った頭部と胴体部なのです。それを骨にするために徐肉作業を行ったのですが、胴体部だけでも結構な大きさがあり、骨の周りに残った肉を取るだけでもなかなか大変な作業となりました。

■9月3日(日) 参加者: 3名
ツキノワグマの解剖を行いました。

■9月16日(土) 参加者: 2名
ツキノワグマの解剖を行いました。

【活動予定】

10月は1日(日)と14日(土)に活動を予定しております。
.11月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



(19) 緑のくすり箱

活動報告日の活動会員数(のべ) 17名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■7月21日(金)・25日(火) 参加者: 9名(21日)・8名(25日) 計17名

活動内容: 藍染め体験(湖南省下田)

毎年実施している草木染めの活動ですが、今年度は湖南省下田にある「紺喜」さんにて、藍染めの体験をさせて頂きました。メンバーが参加できる日や人数などを考慮し、7月の21日と25日の2日間にわたってお世話になりました。

過去にも紺喜さんには緑のくすり箱では訪れており、これまでいろいろな作品を作らせていただいています。

今回は、ハンカチやストール、ショール、手ぬぐい、Tシャツなどを染めました。事前に身近な道具で絞り模様を作ることをイメージして、ビー玉や輪ゴム、たこ糸などをメンバーで用意して持参していったので、アイデア豊富な作品が沢山できました。

持ちかえた作品は、もう1回洗い、(アクが出るので)乾かします。洗うとしばらくは藍がまだ落ちることがあるし、アクが出ることもあるので、他の洗濯物とは一緒にできません。扱いは大変ですが、自然から頂いたとても貴重な藍の色。今回も素晴らしい体験をさせていただくことができました。

【参加者の感想】

- ・10数年前に一度お世話になり、2回目で大物Tシャツに挑戦させていただきました。指導していただき、とてもきれいな藍染に染められました。糸を解くときのわくわくは癖になります。
- ・楽しい1日でした。急いで何も考えないで斜めたたみをして輪ゴムでまいただけで、いい感じに染まって喜んでます。
- ・藍染の藍場の空気感が最高でした。暑さも感じず生きている色をそめさせてもらう感覚がよいです。自然のものからあんな素敵なブルーがもらえるなんてと思いました。
- ・淡いところから順に濃さを深めていく工程を初めて知りました。皆さんの創意工夫された作品たちも素晴らしく、奥の深さを感じました。
- ・毎回意図しているものにはならない難しさがありますが、そこが藍染の奥深さであり楽しさでした。
- ・本物の藍染めは初体験でしたが、染めている間に瓶の表面にぷくぷくと気泡が浮いてきて、まるで生き物のようだなと感じました。出来上がった作品の深みのある藍色と絞り模様を見ていると、とても涼しげな気持ちになります。
- ・とても楽しかったです。最後のふた亀の頃には藍の深みに心が吸い込まれていました。

【活動予定】

・未定

また、「虫架け通信」58号と59号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

LBM虫架けグループ

虫架け通信 No.58

2023年8月1日発行

■7月例会報告

■田んぼ体験報告

■昆虫豆知識

■LBM虫日記

■最後に

7月例会報告

7月15日朽木の小入峠で灯火採集を実施しました。現地17時に集合し、23時過ぎに終了しました。峠は標高約800mで周辺にはブナやミズナラが多く見られる地域で、灯火に飛来する虫は温帯性の種が期待される地域なのですが、当日は風が強く虫は少なめでした。それでも滋賀県では数例しか見つからないヒメオオクワガタ(メス)や個体数の少ないオオノコムシが見られました。今回は参加者が少なく、自然豊かなところなので是非もう一度虫架けでチャレンジしたいと考えています。

参加者：今田、岡田、武田、中川、八尋 計5名(五十音順、敬称略)



生活実験工房 田んぼ体験 昆虫採集

7月30日(日) 10時半~12時半 親子26名参加
虫架け参加者：(中川、武田)、岡田、八尋、山本

説明の後、2グループに別れて昆虫採集を行い、最後に皆で採れた虫を調べました。



LBM虫架けグループ

虫架け通信 No.59

2023年8月30日発行

■7月例会報告

■昆虫豆知識

■LBM虫日記

■記録・報告

■最後に

8月例会報告

8月20日、高島市朽木小入峠で灯火採集を実施しました。参加者は少なく武田、中川、八尋(敬称略)の3人だけ。そして来年から入会を希望されている方がおひとり参加されました。当日は曇りが発生し、そのためどうかわかりませんが甲虫類はさっぱりでしたが、蛾類はそこそこ飛来してくれました。深夜11時ごろガソリンが切れたタイミングで灯火採集を終りました。

場所：高島市朽木小入峠 (alt.800m)
参加者：武田、中川、八尋 (五十音順、敬称略) 他1名
時間：19:00~23:00



参加された皆さんご苦労様でした。来月も残暑が厳しいと思われるので灯火採集の予定です。

昆虫豆知識 (54)

7月の中旬に福井県で灯火採集をして来ました。当日は兵庫県から生き虫屋さん(クワガタとカマキリのブリーダー)お二人も遠くから参加されました。その際、カマキリの生き虫屋さんから蛾の名前を聞かれ、スマホで写された画像を見せていただきました。それはヒョウモンエダシャク(画像参照)というごく普通のシャクガだったのですが、カマキリにこの蛾を餌として与えたとこ食べなかったというのでした(すべてのカマキリが食べなかったわけではないようです)。そこでこのヒョウモンエダシャクを調べたところ、食餌としてアセビ、レンゲツツジが上げられていました。どちらも有毒植物であることはご存知かと思いますが、この植物の毒を体内にため込んだことが原因でカマキリが食べなかったのではないかと考えられます。

ただし、この蛾が有毒であるという記述は図鑑などでは確認できませんでしたが、調べてみる価値は十分ありそうなテーマではないでしょうか。また、エダシャク類に白地に黒い点紋のある種類が多いのも本種への疑問ではないかというは飛躍し過ぎでしょうか。



LBM虫日記 (21)

博物館の敷地内では以前よりジャコウアゲハを何回見かけたことはありましたが、食草のワマンズクサがなかったで敷地内で発生することはありませんでした。その後ワマンズクサの鉢植えが生花屋でおられるようになってからは卵から成虫とあらゆるステージが見られるようになりました。さてジャコウアゲハは昔から番町田屋敷に登場するお菊さんの化身と言われています。おそらくジャコウアゲハの蛹が踊り上げられたお菊さんの姿に似ているからかもしれない、また蛹の色も人の肌を想像させたり、蛹の細い凹凸が蜜物のひだを連想させるからだとか誰か説かれています。昔の人は想像力が豊かであったことに感心させられます。



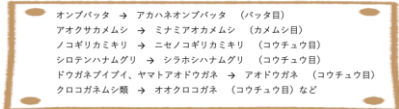
最後に

★今年の企画内のおこめ展が始まりました。田んぼの昆虫も少ないですが展示しています。よろしければ是非ご観覧を。(武田)
★工房行事「昆虫採集」では、さいたま市四国への帰省に参加して下さった父と息子さんもおられました。「アオスジアゲハは凄い」と言いながらも暑さをもとめずにお餅を振る子どもたち、中には、素晴らしい観察力の子もいました。子どもたちから刺激をもらった一日でした。(山本)

編集：武田 山本由里子

昆虫豆知識 (55)

最近、湖畔のコガネムシについていろいろ調べています。以前は極めて普通に見られたドウガネブイブイ (*Anomala cuprea*) が激減して、逆にアオドウガネ (*Anomala albopilosa*) がどんどん増えて来ています。もう10年、20年と経過していくにつれて、完全に入れ代わってしまうのではということが懸念されます。このコガネムシのほかに滋賀県で採集し入れ代わりつつある虫がいくつか見つっています。それらの虫を紹介したいと思います(私の個人的な考えに基づいているものもあります)。



それぞれの種の見分け方については、今後虫架け通信で説明して行ければと考えています。

LBM虫日記 (22)

8月11日、鳥丸半島の草原で一頭のスズメガを採集しました。日本産のスズメガの中でも美しい種類に入ると思われるベニスズメ (*Desilephila elpenor lewisii*) でした。本種はヨーロッパから東アジアの日本までのユーラシア大陸北部に広く分布しています。食草はアカバナ科、ツリフネソウ科、ミソハギ科、アカネ科、アブラナ科、マメ科植物など多岐にわたる草類です。食草から考えて、意外に身近でみられるスズメガの一種なのかもしれません。



記録・報告

中川：8月13日に大津市の長等公園でヤノトラカミキリ (*Xylotrechus yanoi*) を1頭採集しました。滋賀県での採集例はまだまだ少なく、大変面白い記録であると思われま。



最後に

★前回の豆知識で紹介したヒョウモンエダシャクの有毒性について、ネットでいろいろ調べていたら、カエルの餌として本種を与えると吐き出したということが掲載されていました。誰もまだ気がついていないのではないかと考えることはそうめったにないことなんですよね、これはどうなんだろうといういろいろ考えてみる習慣を身に付けておくことは大切なことではないかと思うのですが。(武田)

編集：武田 山本由里子

【活動予定】

1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。9月も灯火採集を行う予定です。昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責：伊東)



(21) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

■7月22日(土)10:00~12:00頃 参加者:(会員)4名(博物館職員)林

内容:屋外展示でのトヨタ関係イベント(10月28日開催)の検討をした。9つのクイズとミッションを体験してもらうというMさんの原案に意見を出し合った。これをもとに修正案を作成してもらうことにした。

■8月は猛暑が続いたため活動は中止した。

夏の花



ナツフジ



サルスベリ



タラノキ

■9月9日(土)10:00~12:00頃 参加者:(会員)7名 (博物館職員)林

内容:

①トヨタ関係イベントの検討。7月22日の打ち合わせ結果を踏まえてMさんが作成してくれた資料を基に研究交流室で打ち合わせをしたのち現場で確認をした。クイズラリーの予定時間は50分。開始前にスズメバチなどへの注意をする。準備品としてシール、画板、ペンシル、パウチなどを用意する。クイズラリーは参加者が最大の100名の場合は3班(約16人x3)に分けたほうが良い。

②びわ博フェス2023関係

ポスター更新を検討中。ワークショップは19日(日)pmに実施。内容は昨年と同様のクイズラリーとする。

【今後の予定】

◎ 9月23日(土)10:00~12:00頃 集合場所:職員駐車場

内容:トヨタ関係イベントとびわ博フェス2023の勉強も兼ねて博物館の屋外の森などの散策を行う。

◎10月14日(土)は検討中

◎10月28日(土)10:00~16:00トヨタ関係イベントに参加。(amは準備)

行替 道天

(22) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) - 名】

グループ担当職員:安達 克紀・渡邊 俊洋

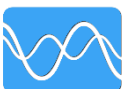
【活動報告】

7月末以降も新たな活動はありませんでした。

【活動予定】

3年あまりにもわたるコロナ禍で活動が停滞し、2019年以前に入会した会員はほとんど卒業してしまったので、もはや中高生の会員は時々研究相談に来る数名しか残っていません。再びの決起に向けて、仲間を集めていこうと思っています。

中高生で他のはしかけグループに参加している人は、ぜひとも琵琶湖梁山泊にもご参加下さい。他分野の研究をしている中高生の仲間たちと交流し、切磋琢磨しましょう。参加ご希望の方は上記代表アドレスまで。大人のサポートメンバーも募集しています。



SALON DE 湖流
Lakes Biwa Museum

(23) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員:中川 信次

【活動報告】

はしかけとしての活動はありませんでしたが、8月19日(土)にメンバー(もと担当学芸員、現特別研究員)が夏休みの課題について博物館に相談してきた中学生にサロン de 湖流の活動に関連の深い実験を指導したので、この実験を参考にした活動展開を検討中です。

【活動予定】

■未定



(24) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:楊 平

【活動報告】

■ 令和5年7月13日(木) 9:30-12:00 小雨 参加者 7名

1 活動先: 東近江市 栗見出在家町一帯

2 調査目的:

当研究会では、利水事業の歴史の地域調査として、今回は、江戸時代の文化三年(1806年)徳川幕府の幕政の維持、立て直し策の一環として彦根藩で行われた栗見出在家地域における新田開発の今日の現地調査を行った。藩主からの新田開発の命を受け、栗見六群から7戸ずつ42戸が愛知川最下流に入植。現在の栗見出在家町である。町内一帯の現状を見聞することで、開村以降、此の地での幾多の辛苦の歴史などへの想いを馳せた次第である。

* 事前に集落の変遷、歴史内容等は、杉田氏が入手、全員に配布(能登川の歴史・明治の古図など)

3 集落の変遷:

- ① 文化九年(1812年)の出在家村地押絵図(栗見出在家蔵)には開村間もなく、耕作地と居住地部分が平等に整然と分割されていたことが判る。この段階では耕作地の中に、入り江が入り込んでいて、一部が島になっている耕作地も確認できる。絵図の赤線表示が当時からの公道で現状は、住居地域の中にあつたクリーク状の水路に囲まれている。また、既に集落の中には神明神社と明法寺が描かれていた。



□湖岸道路から直交する集落のメイン道路



□新田開発の碑



□神明神社本殿

- ② 現在は居地域の中にあつたクリーク状の水路は地下水路となって道路下に埋め立てられ、町内湖辺の砂洲全体を周遊できる道路が堤防上でつながって湖岸道路と直接往来が可能となっている。湖岸道路と直交する集落のメイン道路沿い西側に地域住民が総力をあげて建設したと言われる「浄土真宗 本願寺派 明法寺」の躰がそびえる。四ツ辻を右折すると角に開村 200 年の記念碑と村社「神明神社」の鳥居と境内につながる。本殿の左隣に開村の祖 西村助の丞を祀る「西村神社」が鎮座している。

4 ちょこっと寄り道:魚のゆりかご水田の取組みと絶滅危惧種「アサザ」

新田開発の栗見出在家の愛知川対岸に、魚のゆりかご水田が広がっていた。魚のゆりかご水田につながる水田と琵琶湖面との高さは調査当日で1m弱であった。写真の出在家第2樋門は開放されていて自由に魚が往来できるようである。水路には絶滅危惧種の「アサザ」が群生していたが、周囲との隔たり垣根もなく、このままで守れるのか少し心配である。水路の向こうに区画整備された水田を介して、開村から200年を経た現在の栗見出在家の集落を望むこともできる。



□ゆりかご水田



□「アサザ」群生」



□ 写真スポット(沖島・伊崎先)

■ 令和5年8月10日(木) 9:00-12:00 曇天 参加者 6名

1 活動先: 東近江市 青山町一帯

2 調査目的:

今回は、湖東地方の河岸段丘に注目した。愛知川、佐久良川、日野川の中流域で、典型的な河岸段丘が見られる。平坦面と段丘面が交互に現れ階段状の地形になっている。特に、愛知川右岸の段丘崖の比高は、小倉町(青山地区の上流地域)で約 20m、国道 307 号線の坂道となっている妹町(いもとちょう)で約 15mあり、圧倒される。今回はその河岸段丘の中央部青山町を訪問して、愛知川流域の河岸段丘地にある集落の特色、水利用状況などについて現地確認を行った。

3 集落の変遷

江戸時代の青山は彦根藩領で、村高は「正保郷帳」に4591石とあり、江戸時代を通じて変化はなかった。また天保十三年(1842)「覚」によると44軒 220人の村で、愛知川宿の助郷を勤めていた。集落背後の段丘崖上には青山城遺跡が存在するが、屋敷地名などの城館地名は見出されていない。「滋賀県物産誌」によると、50軒245人「地勢高低一ならず、地理不便、水利又不便、稲梁(稲とあわ総称)・煙草に適す。早魃の患いあり」とある。水量が不足の地域で一毛作田に、なっていた。愛知川右岸低地の田は青山井から引水し「過不足なし」とあるため、「早魃の患あり」とは、この段丘上の田についての文言であろうと、記されている。人口推移において統計以来、大きな変動がみられない。

4 集落の利水

この青山集落を散策すると、各結界にお地藏さんをはじめ、魔除けのために配備されている石仏が数多く確認できる。地理的に愛知川右岸の河岸段丘にある集落。河岸段丘の麓(底部)に居を構えている。上部の広大な土地は桑畑、茶畑、果樹園として活用され、水田の活用は少ない。土砂崩れの発生の危惧からかもしれない。町内を流れる水路は愛知川から引き込んだもので、昔から農業用水にも利用するため、井川(ゆがわ)と呼ばれる導水路で田畑に水を入れていた。今も名残のパイプが残っていて利用は続いているとのことであり愛知川頭首工を介して 青山井が町内に流れ込んでいるのも確認した。旧愛東町の各町内には以前、井川(ゆがわ)が多くあったが、愛知川ダムが完成することで姿を消した所が多い。現在井川を見ることができるのは青山地区で、集落内を流れる清水も残っている。以前と比べて水量は少なくなっている。利用度は水道が普及した頃から減り、今では野菜洗いなどに利用されている程度。当地には小倉井・青山井があり各集落の田を灌漑していた。生活用水・農業用水として貴重な水は、ときにはその取水をめぐる周辺集落と争いになった。記録によれば、大正十四年(1925)と昭和十四年(1939)の湯水時に、青山井と高井堰の取水をめぐる一触即発の事態となっている。川沿いに住む人びとにとって「井」は、まさに命の水を運ぶ存在であり、人びとの汗と涙の結晶であったと言える。



□青山集落の北向き地藏群



□結界に角大師祈祷札



□段丘上部の果樹園

5 河岸段丘上の耕地の姿

段丘崖下の集落から曲がりくねった坂道を登り、段丘上に出た入り口の桜の大樹の下に小さなお地藏さんの祠があり、草を刈り、畑から採った菊の花を供えて居た。段丘上の縁部は前述にも示したが 柿園 梅林 桑畑が広がっており「永源寺マルベリー」という健康桑茶や、果樹は道の駅 マーガレットステーションで 販売しているとの事である。段丘上奥の平坦な耕地では水田も広がっており転作した大豆畑も見られた。河岸段丘の上部は、かなり高台で、果樹園が多くあり水は愛知川頭首工から引水したと思われ、十分に水量が確保されている。昔は青山井から必要な水を引き上げていたと言い、先人の苦勞に理解しがたいものがある。

6 昔の生業について

愛知川沿いの集落では昔から養蚕が盛んで、西小椋村では大正九年(1920)、同十年に小倉村・青山村・曾根村、同十一年に上岸本村、同十二年に妹村、鯉江 村、同十三年に外村・中戸村で養蚕組合が発足している。このため、各家の屋根裏には蚕部屋が設けられていたようだ。

7 日吉神社について

昔からの慣習で「宮衆(みやし)10人」と呼ばれる宮座組織と年番神主制度が残っているとの事で、掃除が行き届いた境内の石の鳥居には勧請吊りが飾られている。さらに参道途中に藁と竹で三角に形づくられた「夏越大祓の飾り」があった。7月8月の行事が行われる。これまで祭祀には袴と袴で参列していたが、最近では簡素化して黒礼服でよしとした。「行事内容含

め少しずつ変わって来ている」と、現役員の方から話を聞くこともできた。神殿裏の石垣の途中から伏流水が浸み出しており、パイプで導水して手水鉢の龍口から吐き出るように設えてある。湧水は夏場でも14℃で冷たくやや硬度高めの酸性水であった。冬季には、法度(ノット)と呼ばれる、弓の的を射る魔除け神事が執り行われるとの事である。

8 善勝寺について

天台寺院として開基され、慶安元年(1648)浄土宗に改宗された。一狐素面宝篋印塔(鎌倉時代作)傘塔婆 地藏菩薩像が境内の隅に残されていて、これらは東近江市指定文化財となっている。



□青山井(ゆ)



□日吉神社勧請吊り

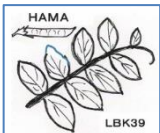


□手水に導水された湧水

9 感じたこと

- ・以前は、水を通じての近隣との付き合いの世界であったと推測される。水を通じての生業であり生き方であったことがよく理解できる。
- ・水とのつながりが近隣そして集落形成の中心であった近世に比べ、現代は、道路網などの整備で移動が簡単になり、周辺地域が拡大した地域の捉え方によって変わってきているが、過去からの良い習慣を守り続けて行こうとしている人達も多数、存在している事実も感じる。
- ・現在では、ダムの建設で水量調整できるため、水への心配は薄れている。現在同地区に居を構えている老人の声をかりれば、「ずいぶん農業も楽になったが、反面、経費高で収益が稼げず、若者が町へ。老人だけの世帯が増えている。」との声。ますます、限界集落が増えて行くのか嘆かわしい次第である。

執筆者 小篠



(25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 27名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

*2023年7月21日(金) 9時20分~11時20分

天候:晴天 気温:28℃(AM9:00) 33℃(最高気温) 風:微風 波:穏やか

琵琶湖の水位:-21cm 参加者:4名 日当たりの良い場所は暑く浜風が吹かない



7月4日にも居たアオサギ



ハマゴウの花



浜のハマゴウ全景



ハマエンドウ生育状況

観察状況 *湖面を吹く風もほとんど感じられないほど穏やかな環境で、ハマゴウは開花真っ盛りで、愛知川河口から生育範囲が拡大している。トイレが設置されている浜辺周辺で確認する。アメリカネナシカズラは見つからず。

ハマエンドウは夏枯れのものの一部散見されます。

活動内容 (1)管理区域の駐車場側の柵外区域の除草。(刈り払い機使用) (2)管理区域内外のツルニチニチソウの駆除(除草)作業。(3)保護区域内の雑草共生エリアの「ハマエンドウの生育確認作業」。

雑草共生エリアの生育について(観察)

(1) エノコロ草が繁茂している状況・・・写真① (2) エノコロ草、他の雑草を放置している理由：当該地は日陰を作る樹木(松やセンダンなど)がなく、常に日光があたり乾燥しやすい土壌の為、保水の目的で松葉を撒き、雑草で日陰を作ることで「ハマエンドウ」の生育を促す目的。



雑草共生生育区域全景



エノコロ草の繁茂状況①



エノコロ草除草途中



除草後ハマエンドウが消滅

【観察状況】 気温も上昇して、エノコロ草やチガヤなどが密集して 30 cm 以上に育ってくると、地面に生えているハマエンドウには日光が届きにくくなり光合成が進まないと推察。風通しもよくない状態となる。

●エノコロ草繁茂の上記写真①

【中間報告】 木陰が出来ないエリアで、エノコロ草やチガヤなどを生やして、草丈が 30 cm 以上で密に生えると地表のハマエンドウにはプラスの効果は得られないと考えられます。

【今後の活動計画】(案) センダンは生育が比較的早いので、現在はテストエリアでも木陰エリアが拡大しています。

●テストエリアの木陰エリア 写真⑤

管理保護区域内のハマエンドウの生育状態では写真⑥のような木陰で草が疎らに生えているエリアが最も勢い良く生えています。但し、まだ木陰が出来ないエリアもあるので、除草は一部の雑草を残すことで木陰の演出が可能と思われます。松葉を引き続き管理エリアに撒く作業を継続する。

●一部雑草を残す 写真⑥



センダンによる木陰演出



草がまばらな状態で木陰のエリアはハマエンドウ育成良好

***令和5年8月1日(火) 9時30分~11時30分**

天候：晴れ 気温：9時30分 26℃、11時30分 34℃、琵琶湖の水位：-30cm、参加者：5名

観察状況 *空には白雲が見られ夏空が広がっていて厳しい暑さでした。波静かな浜ではウインドサーフィンやサップをする家族連れ等で賑やか。*太陽の当たる場所の作業は厳しい。保護区内の日陰でも汗が流れる。水分を十分に取り、自分のペースに合わせ活動をした作業日でした。



今日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ全景

活動内容

管理区域内外の環境整備に取り組む

* 保護区内の除草及び保護域内外ツルニチニチソウの除草

* 保護区域周辺の整理：刈り払い機の除草時に邪魔になっている竹などの撤去

* 継続取組の定例観察：ハマエンドウの生育環境調査 ①裸地 ②樹木の日陰 ③エノコロ草などの草むら

* 管理区域内のシチュエーション別の気温測定：初めての取組で、今後の作業を進める為の一助にするのが目的。数値などは記録欄に記入しています。

海浜植物

* **ハマエンドウ**：すっかり夏枯れしている。一目で緑が少なくなったと感じる。目印(赤箸)のある箇所は直射日光が当り、ハマエンドウが見当たらない。日陰がある「松の木の下」や日陰が出来る「間引いたエノコロ草群」や「ハマゴウ群」には元気なハマエンドウが見られる。* 日陰にあるハマエンドウは強い日光から保護されていて葉も緑色をしている。

* **ハマゴウ**：浜全体に広がり枝が張っているが水不足で元気がなく黄色くなった下葉が目立つ。

* **ハマヒルガオ**：ハマヒルガオも同様に黄色くなった葉が目立つ。水際に近いものは比較的元気。

* 場所別の気温測定記録

測定日：2023年8月1日(火) 11時～ 天候：晴天、微風 気温：33℃

測定場所&温度(温度計は1℃単位)

①木陰(センダンや松の木) 33.℃

②日当たり場所 ・裸地 58℃

・撒いている松葉 上部 58℃ 下部 53℃

③分草むら ・日なた(根本部) 54℃ 木陰(松の木) 37℃



草むら(木陰)



日当たり(松葉エリア)



裸地

<検証継続>

エノコロ草とハマゴウによる日陰効果について(写真)



エノコロ草の日陰効果



ハマゴウの日陰効果



裸地に生えるハマゴウ群

考察：各場所の温度測定値を参考にすると、気温33℃でも裸地は直射日光を受けて、58℃になっています。松やセンダンなど樹木によって出来ている日陰は33℃～37℃と低い。日当たり場所では裸地や撒いてある「松葉」の上部では58℃と高いが同じ場所の松葉の下部では53℃と5℃低い。一方、草むらでは日が当たっている場所は54℃、松の木などで半日陰が出来ている草むらでは37℃とかなり低い温度である。同じ日当たり場所でも「草むら」がある場所では4℃裸地より低い結果が出ました。* 松葉や草むら、ハマゴウ群の場所での水分(保湿)値は今後検証する。

課題：* 保護区域内に生えている「ハマゴウ」の生育管理について現在、保護区域内に生えているハマゴウは除去作業をしていますが、裸地に生えているハマゴウはハマエンドウに日陰効果をもたらしており、除去の範囲、時期など検討の必要があります。

*今年7月下旬より気温が35℃を越える日が7日以上続き、雨も同様に降っておらず高温、少雨で今まで誰も経験した事がなく、来春の「ハマエンドウ」や「ハマゴウ」「ハマヒルガオ」の開花がどうなるか興味のあるところ です。



周辺環境整備



保護区域内での除草



片付けた枯竹など

***令和5年8月18日(金) 9時30分～11時30分**

天候：曇り 気温(9時30分)：29℃、(11時30分)：32℃ 参加者：6名

観察状況：*曇り空だが蒸し暑い。対岸の山々はかすんでいる。*水位は高い。(今日の琵琶湖の水位-0cm) 台風の影響は、木々が少し浜に押し寄せている程度であり感じられない。雨が降り草木は少し元気を取り戻した様子。今日は給水と休憩回数が多く作業が思うように進まない。

活動内容 *保護区内の除草及び保護域内外ツルニチニチソウの除草。*ミーティング(草津校の寄付講座の発表内容について 8月25日に開催) *ネナシカズラの駆除(1カ所 1m×2m) 最盛期は過ぎたようだ。

海浜植物

*ハマエンドウ：すっかり夏枯れ状態。地面が見えてきた。一方、中央の南側、松の木の周辺に新芽も数本出ている。

*ハマゴウ：花は数カ所にしかなく、大部分の枝に種がついている。

*ハマヒルガオ：雨で水分が補給されたのか葉の広がりが感じられた。



ハマエンドウの新芽



ハマゴウに種が付いている



ハマヒルガオ

***2023年9月5日(火) 9時20分～11時30分**

天候：晴天 気温：31℃(AM9:30) 34℃(最高気温) (日当たり場所は暑く浜風が吹かない) 風：無風 波：穏やか
琵琶湖の水位：-31cm 参加者：5名(新会員：真崎勝久氏)



(近江舞子方面)

穏やかな湖面

(長浜方面)



保護区域内全景

観察状況：残暑が厳しく、作業開始時には気温が31℃になっており、日射しも強く日陰での作業になった。湖面も穏やかであるが、暑さは厳しくハマゴウはほとんど種子になっている。ハマエンドウは夏枯れが始まっているが、所々で新芽も見られる。アメリカネナシカズラは1カ所発見して処理。

活動内容：取組項目 *びわ博への展示について、*管理区域柵外の区域で除草。(ツルニチニチソウ) *管理区域内アメリカナシカズラの駆除作業。*保護区域内の雑草共生エリアの「ハマエンドウの生育確認作業」*保護区域内での除草作業



エノコロ草内のハマエンドウ①



裸地での発芽写真②

雑草共生エリアの育成について(観察)

エノコロ草が生えている場所でのハマエンドウの生育状況・・・写真①

【環境状況】 (1)生育地のエノコロ草が前夜の雨を保っており地表が湿っている状態。

(2)雑草エリアの日当たり場所で、ハマエンドウの新芽が3カ所見つかる・・・写真②

(注) ハマエンドウの発芽(新芽)は種子によるものか、既存の地下茎の伸長(クローン)か？

*食用の遠藤も、この時期に発芽することもあるが、これはどっちかな？

松枯れ発生！！ 保護区域内外の松が松枯れ病にかかり、既存の松の木が全滅する見込み。

順次、枯れた松の木は伐採していくが、後は日陰が大幅に減っていく。

***令和5年9月15日(金) 9時30分～11時30分**

天候：晴れ 気温：25℃(9時30分)、31℃(11時30分) 今日の琵琶湖の水位：-29cm、参加者：7名

観察状況：空はいわし雲が見え少し秋の気配を感じる。空気は澄んで対岸の山もきれい。波が静かに押し寄せている。浜は木くず等のゴミが多い。松枯れが一層進んでいて、このままだと保護区全体に広がってしまう。今のうちに対策(伐採と保護)が必要。作業終了後、宇野さんが来られ、真崎さんと対談中、キツネがハマゴウ群落を南から北へと駆け抜けたとのこと。風がなく蒸し暑さを感じた作業日。

活動内容：保護区内及び浜の除草(主としてオオフトバムグラ)。ミーティング(会計処理について)。ネナシカズラの駆除(1カ所 2m×2m)。昨年同月の記録を見ると枯れてきていると記載しているが、今年は9月になり勢いが増してきたように思う。虫こぶもたくさんついている。暑さが緩み雨も降って繁殖するには良い条件なのか？

海浜植物：

***ハマエンドウ：**すっかり古い茎は姿を消し、新しい茎が伸び出した。特に松の木の下や観察中のエノクログサの中は勢いが良い。日の当たる中央付近も新芽をみることができる。

***ハマゴウ：**花は数カ所にしかなく、枝に種がついている。種も少し黒く変色してきた。

***ハマヒルガオ：**葉は枯れ始めているがまだ広がっている。



芽吹くハマエンドウの新芽



変色が始まったハマゴウの種



ハマヒルガオ

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(10月～12月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、必ず事前に琵琶湖博物館ホームページで詳細をご確認ください。

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
【田んぼ体験】 生活実験工房 田んぼ体験 稲刈り・ハサ掛け(2)	生活実験工房の施設や利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、稲刈り・ハサ掛け作業を体験して頂きます。	2023年 10月15日	日	10時30分～ 12時30分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	(受付時間10時 00分～)
里山体験教室 (第3回)	博物館を飛び出し、実際の里山で季節ごとの自然観察や里山遊び体験をしよう!	2023年 10月15日	日	10時00分～ 15時00分	野洲市 大篠原 地先	※4回開催分一 括申込です。1 回分だけの申し 込みはできません。 ※少雨決行
ちこあそ・10月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。 毎月第3水曜日に実施しています。	2023年 10月18日	水	10時00分～ 14時00分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込み の上、10時～14 時の間でご都合 のよい時間帯 に、生活実験工 房にお越しくだ さい。
ふらっと自然観察 in 湖西	身近な自然のなかで、自然に触れる楽しさを体験したり紹介したりします。自然のなかで「ふらっと自然観察」を通じて自然と暮らしの知恵を楽しく発見する場です。	2023年 10月29日	日	10時30分～ 12時00分	針江浜園 地(高島 市新旭町 針江)	
下物ビオトープの 水だいたい抜く 2023	年に1度の下物ビオトープの水を抜く日にビオトープ内でいろいろな生き物を採集してみよう!	2023年 11月4日	土	10時00分～ 12時00分	滋賀県 草津市	※雨天中止
ちこあそ・11月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。 毎月第3水曜日に実施しています。	2023年 11月15日	水	10時00分～ 14時00分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込み の上、10時～14 時の間でご都合 のよい時間帯 に、生活実験工 房にお越しくだ さい。
季節の植物でアロマ ウォーターを作ろう!	季節の植物を使って、蒸留器でハーブウォーターを抽出します。抽出液を使ってルームスプレー等を作ってみましょう。	2023年 11月21日	火	11時00分～ 12時00分	琵琶湖 博物館 生活実習 工房	

【わくわく探検隊】 綿にふれてみよう！	昔の道具を使い、綿花から糸をつむぐ体験をします。当時の人々の知恵や努力を感じながら、綿がもつ自然の柔らかさに触れます。	2023年 12月9日	土	13時30分～ 15時00分	琵琶湖 博物館 実習室2 生活実験 工房	※雨天決行
【田んぼ体験】 生活実験工房 田んぼ体験 しめ縄づくり	生活実験工房の施設を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、しめ縄づくり作業を体験して頂きます。	2023年 12月17日	日	10時30分～ 12時30分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	(受付時間 10時 00分～)
ちこあそ・12月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。 毎月第3水曜日に実施しています。	2023年 12月20日	水	10時00分～ 14時00分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込み の上、10時～14 時の間でご都合 のよい時間帯 に、生活実験工 房にお越しくだ さい。

4. 生活実験工房からのお知らせ

9月3日(日)には稲刈りを行いました。
大変暑い日でしたが、皆さん最後まで元気に作業をしてくださいました。
2週間ほど天日で乾燥させたあと、9月16日(土)には脱穀を行いました。

今年の収穫は・・・残念ながら少な目です。原因は色々考えられるのですが、森の中にある田んぼなので、日照条件が良くないこと、風通しがよくないことが大きいのではないかと考えています。(森のお陰で生物多様性には恵まれています)。環境に配慮しつつも収量アップを目指して、耕作方法の改善を検討中です。

今後の工房でのイベントの予定は下記のとおりです。
(一般参加の場合は予約が必要です。応援スタッフとして参加頂ける場合は
環境学習・交流係 中川までご連絡ください)



ハサ掛け

【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～) 場所：生活実験工房
稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

10月15日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)
12月17日(日) しめ縄づくり
2月4日(日) わら細工

担当：環境学習・交流係

5. その他の事項

(1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。